

基本施策 6 2 2 道路網の整備

部会員

- ・施策 01 の取組に「幹線道路の計画的な整備」とあるが、公平感を出すために計画が分散してしまい、主要道路の整備が進まない懸念があるので、「重点的な整備」ではないか。

事務局

- ・言葉的には問題ない。

部会員

- ・「市街地の移動性を高める～」とあるが、市街地とはどの範囲を指すのか。

事務局

- ・施策 01 の取組では、1 項目に市内外を結ぶ、2 項目に市街地と周辺部を結ぶ、3 項目に市街地内の地域間を結ぶ、という観点から構成している。

部会員

- ・「広域道路網」とは、市内の道路網を指すのか、市と周辺市町村を結ぶ事も含まれるのか。

事務局

- ・市内を結ぶ幹線道路網と市内外を結ぶ広域幹線道路網を含めて、「広域道路網の整備」としている。
- ・公共交通と道路のネットワークにより、市内は勿論、周辺地域との連携を図っていく必要がある。広域道路とは、2 車線両歩道の道路をイメージしている。

部会員

- ・道路網と公共交通は一体化して整備をしていくべきだが、その部分が全く触れておらず、道路だけを整備するように読めてしまう。道路整備する場合、例えば、パークアンドライドの施設等、公共交通を意識した整備方法があるため、体系では公共交通と道路整備が分かれているが、双方がリンクしていることが市民に分かる表現を入れて欲しい。公共交通とのリンクを考えた道路整備を行う、とすれば分かりやすい。

事務局

- ・駅前広場、駐車場、ポケットパークも道路に入る。表現として難しいが、意味は理解しているので、検討したい。

部会員

- ・コンパクトな街づくりと謳っているが、広域道路網を整備していくのは、矛盾している。

事務局

- ・都市計画マスタープランで謳っているコンパクトは、何でも小さくするものではなく、中心部から郊外に拡大しない前提はあるが、機能的に必要なものは進めていかなければいけない。都市の形成化に道路整備は必要である。

部会員

- ・幹線道路を整備することにより、中心市街地の再生としながら、郊外店が増えることも予想され、市街地が拡大していく可能性があるので、計画で強く謳う必要はないのでは。

部会員

- ・限られた財源の中で、優先順位をつけて、重点的に整備することを考慮すべき。

事務局

- ・財源については、行財政経営の「健全な財政運営の実現」で述べている。

部会員

- ・生活道路の目標に「通過交通の排除」を入れられないか。現実には生活道路が脇道的に使われ、住宅の前を通過交通が通っている事例もあるが、今後、通過交通を排除しながら整備していく方向性を示せないか。

事務局

- ・通過交通を排除する手段としては、突起物を敷いてスピードを出さなくする方法などがある。

部会員

- ・逆に通過交通が生活道路に入らないよう誘導していく方法もある。
- ・施策 02 の取組に「自転車歩行者道の整備」とあるが、自転車道と歩行者道を分けることはできないか。

事務局

- ・本市において、自転車道を整備する事は場所的に難しい。交通安全面の視点から「自転車歩行者道の整備」と書かざるを得ない。

部会員

- ・自転車を活用できる都市になってほしい。

部会員

- ・通学路でも交通事故が多発しており、道路構造由来の安全対策は、安全・安心という部分に含まれるのか。前回、道路に中央線を入れない方が、交通事故を防げるという話しがあったが、他の項目で取り上げられるのか。

事務局

- ・通学路を含めた生活道路を、誰もが安全で安心して利用できるよう整備していく。交通安全対策については、防災分野でも取り上げている。

部会員

- ・通学路がその他の通過道路になっており、子供達の通学時の安全性を図るために重点的に整備してほしい。

事務局

- ・防災分野の再掲を含めて、検討したい。

部会員

- ・道路を新設していただくだけではなく、既存道路を見直していく事も必要だ。

事務局

- ・道路網の整備には、既存道路の拡幅改良なども含まれている。

部会員

- ・施策02の取組に「有機的に結ぶ道路ネットワークの改善・強化」とあるが、「有機的」という言葉が分かりづらい。

部会員

- ・「機能的」の方が良いのでは。

部会員

- ・「安全性に配慮した橋梁の整備」とは、歩道を付けたりする事を考えているのか。

事務局

- ・地震、耐震を含めて安全性としている。年次計画で強度基準に基づき、橋梁の安全点検を進めており、維持補修に努めている。

基本施策6 2 3 高度情報化の推進

部会員

- ・施策タイトルの「情報通信基盤」はインフラ整備をイメージするが、主な取組にはハードとソフトの取組部分があり、ソフトも含めたインフラ整備という事で良いのか。

事務局

- ・地域の情報格差を解消し、インターネットを利用したい人が利用できる環境整備をしていく必要がある。インフラ整備を進めないと、地域ポータルサイトにも入れない訳で、情報通信基盤整備とソフト事業はリンクしており、ハード面だけを意識したものではない。

部会員

- ・ハードとソフトの両面が意識できる表現にした方が良い。どうしてもインフラ整備だけをイメージしてしまうので、「～の環境整備」など、広く言葉を選んで、工夫して欲しい。
- ・全般的に言葉が曖昧。高度情報化とは、情報の高度化という意味であり、情報化という言葉は基本的には無い。同じ事から地域情報化とは言わず、情報の地域化という事になる。よく情報化社会と言われるので、何でも情報化という言葉を使ってしまいが、何がしたいのか、不明な表現になってしまうので、明確にして欲しい。

部会員

- ・取組の「地域ポータルサイトの拡充」は必要ないのでは。取組内容が限定されてしまう。

部会員

- ・「地域情報化」とは「地域における情報の高度化」という意味になる。

事務局

- ・担当課と調整したい。

部会長

- ・タイトルを「情報通信基盤」とすれば、取組のハードとソフトを分ける必要があり、そこを踏まえて検討してもらいたい。

部会員

- ・情報通信基盤は何を指しているのか。現在、NTT等の民間通信企業がインフラ整備を進めているが、行政がどこまで整備を進めていくのか、明確にして欲しい。
- ・取組に「だれもが等しく情報を享受できる情報通信基盤の整備促進」とあるが、情報通信基盤とは何を指すのか、整理する必要がある。

事務局

- ・情報通信基盤には、テレビ、電話回線、ケーブルテレビ、インターネットなど、現代社会における様々な情報通信の基盤が含まれている。これから次世代通信として、衛生通信なども普及すると考えられる。法律上は行政が情報通信基盤を整備する決まりはなく、基盤整備の支援、促進していく事が行政の役割である。支援だけでは進まない、中山間地域のCATV整備については行政で投資をしてきたが、現在は財政的な問題もあり中断している。今後、防災関係の通信基盤整備などは、行政が具体的に進めていく必要がある。

部会員

- ・実態は情報通信社会進展への対応である。

部会員

- ・民間企業が扱う役割の方が、はるかに大きいということか。

部会員

- ・方針として情報化は重要な課題であり、民間への支援を含め、整備促進としているので、これで良いと思う。積極的な姿勢を示す必要がある。

部会員

- ・電子市役所の構築は、数年前からテストを進めており、非常に可能性の大きな施策であるが、現実には電子市役所の構築が進んでいるとは思えない。それは技術の問題ではなく、市のコンセンサスの問題であり、電子行政サービスにより、市民が窓口に来ることをどうやって減らせるか、という事を真剣に考えれば、市民にとって相当に便利になる可能性がある。

事務局

- ・そのとおりだと思う。昨年からは体育施設の電子申請を行っているが、申請の59%がインターネットからの申請である。これから、国民保健、健康診断、税の申告など、各課で真剣に考えていく必要がある。

部会員

- ・オリンピックで整備した光ケーブルを有効活用してもらいたい。

部会員

- ・情報に係る安全・安心な社会の構築という部分が漏れている。

事務局

- ・取組に入れられるか、事務局と検討したい。

部会員

- ・北アルプスでは山で遭難した際、携帯電話で連絡が取れるよう、鉄塔を建設する要望があるらしい。本市でも戸隠等での遭難が考えられるが、何か考えているのか。

事務局

- ・市内でも、他地域との電波が取れない地域があり、日常生活の中で通信ができることに重点を置いている。

基本施策 6 3 1 国際化の推進

部会員

- ・基本施策の方針で、アルファベットで「国際都市NAGANO」と表記しているが、意図はあるのか。総合計画の中にアルファベットで表記するのは、個人的には違和感を感じる。

事務局

- ・基本構想の序論でも、オリンピックなどを通じて、「世界のNAGANO」へ飛躍するという表現を使っている。国際化の部分でも、世界に向けて発信するという意味合いから「NAGANO」と表記している。

部会員

- ・姉妹都市及び友好都市は今後、拡大していく予定はあるのか。

事務局

- ・予定はない。

部会員

- ・「留学生との交流及び人材の活用」とあるが、だれと交流していくのか。

事務局

- ・市民や市民団体とのふれあいやボランティア活動を通しての交流、本市と母国との国際交流を行う先導的役割などを意図している。

部会員

- ・市民や市民団体との交流と入れた方が分かりやすい。

部会員

- ・最近、人材は「人財」と表記されることが多い。

部会員

- ・全体を通じて、観光に関する項目が入っていない。最近、アジアの観光客の受入れを強化している市町村も増えており、積極的に外国観光客を受け入れる体制づくりを考えていく必要がある。

事務局

- ・施策 02「国際化への環境整備」でも、「外国人が訪れやすく、暮らしやすいまちを目指す」としているが、観光に焦点を置いた場合、産業分野の基本施策「多様な観光交流の推進」で観光面を取り上げており、主な取組でも「アジアを中心とした海外への情報発信と外国人観光客誘致」を取り入れている。

部会員

- ・外国観光客に対して、長野市の売り物になるものが欲しい。

部会員

- ・人材育成のために、どのような学校教育を進めていくのか。また、先生を育成するのか、生徒を育成するのか、分かりづらい。

事務局

- ・学校教育においては、語学力の向上や国際理解を深める教育を進め、国際的視野を身につけた児童・生徒を育成したい。

基本施策 6 3 2 広域連携の推進

部会員

- ・中部圏区域としている意味はあるのか。

事務局

- ・中部圏区域の都市整備区域、都市開発区域、保全区域の整備に関する法律があり、その法律に基づき、長野・上田地域における地域連携を推進している。エリアとしては、千曲川に沿って、北側は中野、須坂市から南側は千曲、上田市で構成しており、長野市を中心に連携し、相互に地域の発展を目指している。また、長野新幹線の延伸、広域道路ネットワークや高度情報化の発展により、より広域的に他都市との連携を図る必要がある。

部会員

- ・道州制の検討を課題に含めた場合、中部圏区域と言ってしまうと、長野市が一番端に位置してしまい、道州制と中部圏区域の組み合わせは良くない。

事務局

- ・参考にさせていただく。

行政経営の方針について

事務局

- ・情報に係る安全・安心な社会の構築については、施策「開かれた市政の推進」の中で、個人情報の管理・保護などのセキュリティポリシーの部分を取り入れている。
- ・道州制については、施策「地方分権の推進」の取組「新たな地方自治制度に対する、調査・研究の推進と迅速な対応」の中に捉えている。
- ・情報の高度化については、施策「利用しやすい行政サービスの提供」の中で、電子市役所の考え方を取り入れている。

部会員より、まちづくり活動の事例説明

- ・売木村のまちづくり活動として、村の子供達に売木の精を描いてもらい、それを包装紙として各物産店で使用している。絵の一つひとつに物語があり、村を紹介している。長野市でも、大規模再開発だけではなく、このようなソフトの部分でもまちづくり活動が出来るのではないか。

各分野間の調整事項

事務局

- ・次回の審議会で、都市整備分野の国際交流・地域間交流、環境部会の住環境整備について、また、環境分野の景観の部分について、都市整備の要素が強いため、都市整備分野に移行する事を事務局案として提案したい。